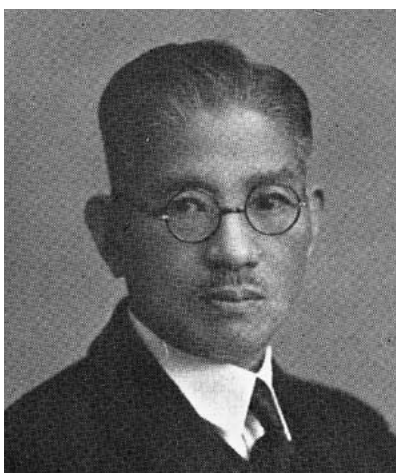




農業技師。農業指導者。農政活動家。久米郡南土居村(現、松山市)出身。同村の農家に生まれる。明治28(1895)年3月から斎院と石井の小学校の教員となったが1年足らずで辞職し、妻子を残して上京、帝国大学農科大学(現、東京大学)乙科に入学、3年間にわたり勉学に励んだ。

明治32(1899)年、大学を卒業し、全国農事会に書記として就職したが、実家の経済的危機のため辞任して故郷に帰り、農業専業に戻った。明治34(1901)年4月、温泉郡農会技師(最初の郡技師)に就任し、郡内の諸村を行脚して農事改良、農民の教育に尽力し、明治38(1905)年5月から愛媛県農会技師に就任し、後に幹事になって活動した。県農会技師時代には愛媛県下を回り、農事改良、農民教育に尽力するとともに、当時、東予地方で大問題になった四阪島製錬所の煙害問題に取り組み、煙害の

原因は住友の四阪島製錬所にあると論証して解決に貢献した。大正10(1921)年4月、帝国農会幹事に就任して全国を奔走し、主として生産費調査や農業経営面の指導をした。

大正13(1924)年、第2次護憲運動の最中、温泉郡・伊予郡の農村青年達の推薦・運動により、第15回衆議院議員総選挙に無所属・中立で立候補し、当選。議会で農業の重要性を訴え続け、時の蔵相・浜口雄幸をして、「農村問題の権威」として言わしめた。

昭和11(1936)年、帝国農会を退職して郷里に戻り、昭和14(1939)年11月から郷里の温泉郡石井村(現、松山市)の村長を務めた。

略 歴

明治3(1870)年6月2日	久米郡南土居村の農家に生まれる。
明治28(1895)年	小学校の教員となる。
明治29(1896)年2月	教員をやめて妻子を残して上京
6月	帝国大学農科大学乙科に入学する。
明治32(1899)年7月	同大学卒業
8月	農事会本部・全国農事会に書記として就職
明治33(1900)年12月	全国農事会を辞任し、故郷に帰る。
明治34(1901)年4月	温泉郡からの要請で、温泉郡農会技師(最初の郡技師)に就任
明治38(1905)年5月	愛媛県農会技師に就任。技師の時代に、東予地方で大問題になった住友の四阪島製錬所の煙害問題に取り組み始める。
明治44(1911)年5月	愛媛県農会幹事に就任
大正2(1913)年12月	愛媛県技師に就任。大正7年から愛媛県産業調査に従事
大正10(1921)年4月	帝国農会幹事に就任
大正13(1924)年5月	温泉郡・伊予郡の農村青年達の推薦・運動により、第15回衆議院議員総選挙に立候補し、当選
昭和11(1936)年9月	帝国農会を退職。帝国農会特別議員に就任
昭和14(1939)年11月	郷里の石井村の村長に就任
昭和18(1943)年2月	愛媛県食糧営団理事長に就任
昭和23(1948)年5月	温泉・松山農民組合連合会長に就任
昭和24(1949)年7月26日	80歳で永眠

(写真：『岡田温撰集』より)

〈関連図書〉

- ・岡田温著；川東埤弘原文校閲・脚注『帝国農会幹事 岡田温日記 1巻～14巻』
松山大学総合研究所 2006年～2020年
 - ・川東埤弘『農ひとすじ岡田温』愛媛新聞サービスセンター 2010年
 - ・川東埤弘『帝国農会幹事 岡田温』上・下巻 御茶の水書房 2014年
- 〈ゆかりのある場所〉…(P283, 78)